

2 伊江御殿家関係資料

(1)「向姓家譜 大宗」(No.1)

伊江御殿家の家譜。伊江御殿の家譜は、第二尚氏第4代国王尚清の7男にあたる尚^{しょう}宗賢、伊江王子朝義(1538～1586年)を初代とし、13世朝^{ちょう}真(1858～1921年)の代まで、代々書き連ねている。家譜には、系図とともに、個人の履歴が盛り込まれ、どのような仕事に就いたかなどがわかる。

(2)「辞令書」(No.68)

伊江御殿家7世伊江王子朝^{ちょう}倚の室である尚姓瑞慶覧按司が聞得大君に就任した際の辞令書。聞得大君の辞令書は、ほとんど例がなく、現物が確認できる好資料である。乾隆49年(1784年)

(3)「辞令書」(No.77)

伊江御殿家第11世朝^{ちょう}忠が、伊江島の地頭職を賜り、大城王子から伊江王子と姓が変更となる辞令書。道光15年(1835)

(4)「言上写」(No.91)

言上写とは、仕事に就くための一つの形態で、こちら側から申し上げたことを控えた(写した)文書のこと。「請^{こう}」との書き出しから、こういう仕事に就かせてください、こちらからお願いし、許可される形態をとる。文書には、薩摩藩主の娘である「篤^{あつ}姫」が將軍家へ輿入れした際の祝儀ご使者に任命されるよう願ったもの。

(5)「生子証文」(No.117)

「生子証文」とは、現在でいうところの出生届のこと。子どもが生まれると親戚や隣組の人々が出生は間違いないと証明の印を押す。道光21年(1841年)

(6)「墨跡」(No.146)

伊江王子朝忠の書。「風清く、雲静か。山高く、水長し。」とある。「中山正使尚健」との署名から、1872年の維新慶賀使の正使として東京に赴いた際の書であろう。日本の風景を詠んだものと思われる。